

番号	49	黒塩地区地滑り工事記念		
所在地		伊万里市黒川町黒塩 淀姫神社境内		
災害別		明治22年(1889)5月～ 地すべり		
目的別		記念碑	建立年	平成18年12月
特記事項				



伊万里市黒川町黒塩の淀姫神社境内にひっそりと建つ「黒塩地区地滑り工事記念」の碑。裏面の碑文には、「発生 明治二十二年五月 竣工 平成九年三月 総事業費 三十億圓 国会議員ほか関係者氏名(略) 平成十八年十二月建立」と刻まれている。

しかし、碑文に記されている明治22年(1889)5月に地すべりが発生したという記述は、「黒川町誌」(H元,12,1)、旧「伊万里市史」(S38,10,1)や「伊万里市史」(H15,3,3)その他の資料を調べたが見当たらなかった。

黒塩の地すべりについては、別項の「人見岳大神位」でも述べているが、「黒川町誌」によれば、明治38年(1905)ごろより微動があり、明治42年(1909)、人見岳付近に大亀裂が生じ、次第に被害が広がったと記されている。一方、旧「伊万里市史」では、明治43年の豪雨時から滑動が始まり、大正8年には最も激しく30m 沈下したと記している。

また、「伊万里市史」によれば、地すべりのため、国道(204号線)は西側に押されて、「く」の字に曲がり、たびたび復旧工事が行われてきたと記されている。



「伊万里の山河 二」（諸岡 均著 2004,3, 22）によると、「地すべりの中央(人見岳)附近は、東南―北西に、伊万里断層が存在していることを、地すべり防止工事中に確認した。この断層が地すべりに大きく関係しているものと考えられる。」と述べられている。また、黒塩の地すべり地区は、昭和36年に建設省所管の「地すべり防止区域」に指定され、昭和62年頃から、集水井戸

や抑止杭、排水路など地すべり防止工事がはじめられた。その結果、「現在では、大掛かりな地滑り防止の工事が完了し、地滑りはほぼ収まっている。」(伊万里市史)ということである。



国土地理院電子国土 Web

